

テーマ：雇用関連統計（2007年8月）

発表日：2007年9月28日（金）

～失業率の改善は足踏みも、労働市場の改善は持続～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 柵山 順子
TEL：03-5221-4548

要旨

- 8月の失業率は先月から0.2ポイント悪化し、3.8%となった。季調値でみた雇用者数は先月から増加したが、自営業者などの減少により就業者数では減少が続いた。こうした中、労働力人口の減少にいったん歯止めがかかった影響などで、女性の失業者数が大きく増加し、全体の失業率を押し上げた。
- 4月以降、改善テンポの速まっていた失業率だが、8月は一旦足踏みとなった。ただし、企業の採用意欲は引き続き強いと見られることから、雇用環境の改善は続いているといえる。
- 労働市場への労働者の回帰が続くとみられることから、失業率の改善は当面一進一退の動きとなりそうだ。ただし、企業の人手不足を背景に、緩やかな雇用環境の改善は今後も続く見込みである。

(単位：%、万人、倍)

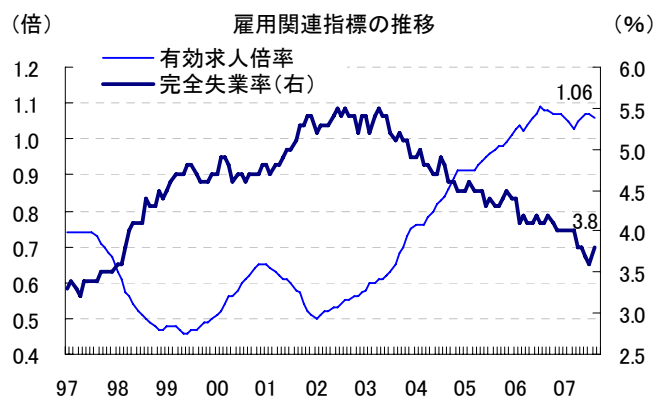
	労働力調査								一般職業紹介状況				
	労働力人口		就業者数		雇用者数		失業者数		完全失業率	有効求人倍率	新規求人倍率	新規求人	
	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	季調値	季調値	前期比	
06	2月	6,660	17	6,385	48	5,476	126	276	▲31	4.1	1.04	1.56	0.6
	3月	6,646	24	6,372	48	5,469	111	276	▲24	4.2	1.02	1.51	▲3.6
	4月	6,633	▲10	6,364	16	5,456	69	271	▲26	4.1	1.04	1.53	0.8
	5月	6,650	▲17	6,380	13	5,473	78	271	▲30	4.1	1.06	1.61	4.5
	6月	6,658	19	6,376	20	5,484	101	281	▲2	4.2	1.07	1.58	▲1.6
	7月	6,643	▲11	6,372	11	5,460	73	271	▲21	4.1	1.09	1.58	1.3
	8月	6,653	10	6,377	22	5,469	81	276	▲12	4.1	1.08	1.60	0.1
	9月	6,662	▲11	6,382	▲6	5,479	40	279	▲5	4.2	1.08	1.57	▲2.1
	10月	6,677	5	6,404	28	5,485	45	273	▲23	4.1	1.07	1.53	▲3.2
	11月	6,683	33	6,416	66	5,490	80	265	▲33	4.0	1.07	1.60	3.3
	12月	6,665	18	6,394	39	5,473	53	269	▲21	4.0	1.07	1.60	▲0.7
	07	1月	6,636	▲19	6,373	9	5,496	48	264	▲28	4.0	1.06	1.51
2月		6,683	23	6,415	30	5,535	58	268	▲7	4.0	1.05	1.51	2.1
3月		6,683	35	6,416	43	5,530	60	269	▲8	4.0	1.03	1.50	▲4.7
4月		6,692	60	6,439	76	5,540	85	256	▲16	3.8	1.05	1.58	0.7
5月		6,680	32	6,429	51	5,516	47	252	▲19	3.8	1.06	1.54	2.1
6月		6,675	16	6,428	53	5,532	48	244	▲37	3.7	1.07	1.54	▲0.9
7月		6,646	3	6,409	37	5,514	53	236	▲34	3.6	1.07	1.55	▲1.1
8月		6,649	▲4	6,395	19	5,529	59	252	▲23	3.8	1.06	1.58	▲0.3

(出所) 総務省「労働力調査」厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は3ヶ月ぶりに悪化し3.8%

8月の完全失業率は3.8%となり、先月から0.2ポイント悪化した。失業率の悪化は3ヶ月ぶり、ここまで改善テンポの速まっていた失業率だが、8月は一旦足踏みとなった。

季節調整値でみると、雇用者数は前月比+0.3%と改善がみられた。しかし、自営業者などの減少により、就業者数全体では同▲0.2%と先月から低下した。失業者数についてみると、自営業者数の減少やここ数ヶ月



続いていた労働力人口の減少に歯止めがかかった影響で、同+6.8%と大幅に増加した。

8月は失業率が上昇したものの、雇用者数は緩やかな増加基調が続いている。また、同時に公表された有効求人倍率は先月から小幅低下したが、新規求人倍率では改善が続いており、企業の採用意欲は引き続き強いとみられる。こうしたことから、8月の失業率上昇は、4月以降の失業率低下ペースが非常に速かったことの揺り戻しや、その背景となっていた労働力人口の減少が一旦とまった影響があるとみられ、雇用環境の悪化を示すものではないといえる。

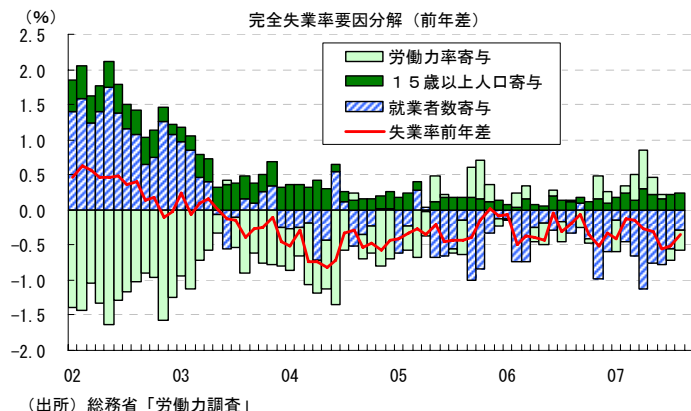
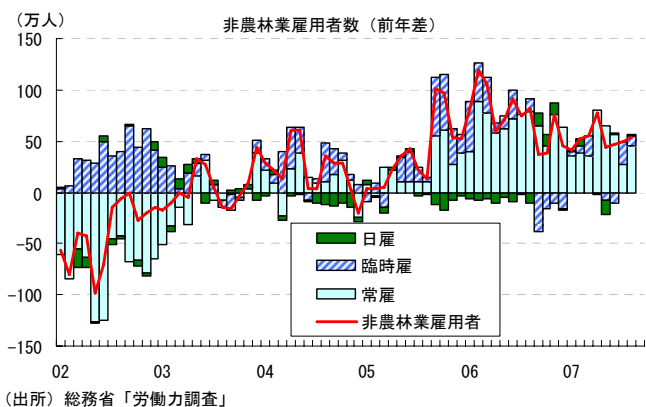
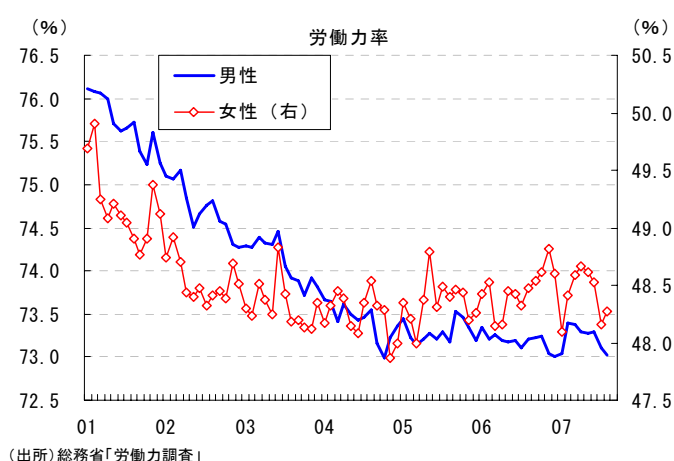
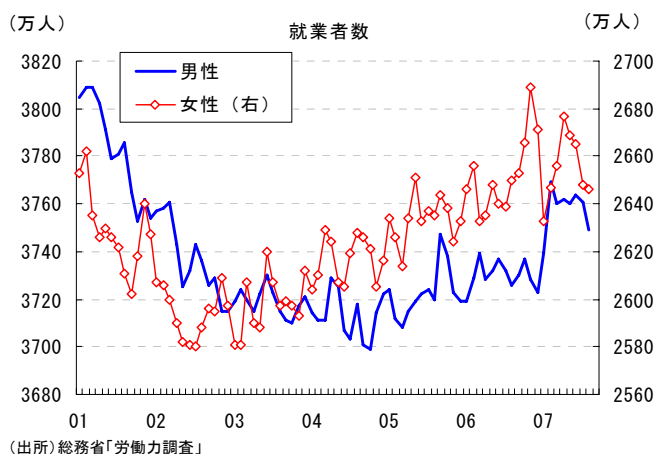
○ 労働力率上昇の兆しか

失業率は4月に3%台に突入して以降、速いテンポで改善が進んでいたが、8月は3ヶ月ぶりに上昇した。失業率を男女別にみると、男性が3.8%（前月差+0.1%p）とほぼ横ばいで推移した一方、女性は3.7%（同+0.4%）と大幅に上昇した。女性の失業率上昇要因を探ると、就業者数は前月比▲0.1%とほぼ横ばいで推移したものの、労働力人口が同+0.4%と4ヶ月ぶりに上昇し、失業率を押し上げた。

足元では、長期にわたる景気回復を背景に企業が人手不足感を強めており、積極的に採用を進めている。新卒はもちろんのこと、高いスキルや豊富な経験を持つ高齢層や、不景気時代に企業が採用を手控えたために不足している若手の中堅層など、採用の枠は広がりを見せている。こうした動きを受けて、これまで満足する職につけないと就職をあきらめていた人たちが、今後は労働市場に回帰してくると予想される。まだ単月の動きではあるが、8月の女性の失業率上昇はこうした動きが始まったことを示しているのかもしれない。

○ 当面の失業率は一進一退の状況に

景気回復を背景に今後は労働市場に回帰する労働者数の増加が見込まれることから、当面の失業率は一進一退の動きとなるだろう。もっとも、こうした動きは雇用環境の悪化を示すものではない。景気回復を背景とした企業の手不足感は今後も当面続く見込みで、今後も雇用環境は緩やかな改善が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。